

キャプチャーボードの選び方

こんにちは、松下です。

今回は、キャプチャーボードの選び方について解説します。

キャプチャーボードは、あなたがこれからYouTubeで、ゲーム実況の生配信を行う上で、必要不可欠なものになりますので、最後までしっかりとご視聴ください。

それでは、張り切って参りましょう！

まずは、キャプチャーボードの概要について解説します。

キャプチャーボードとは、PS4やSwitchなどのゲーム機や、スマホなどの外部機器の映像や音声を、パソコンに認識させて出力する機材になります。

こういう話をすると、「HDMIケーブルでパソコンとモニターを直接つなげばいいんじゃないの？」という声が聞こえて来そうですが、確かにモニターに映してゲームをプレイするだけでしたら、そのやり方でもOKです。

しかし、HDMIケーブルはパソコンからモニターへ映し出すことは

できても、パソコンに映像や音声を認識させるということができないので、録画や生配信をすることができません。

なので、PS4やSwitchなどのゲーム機や、スマホなどの外部機器の映像や音声をパソコンに認識させるには、キャプチャーボードを接続する必要があるというわけです。

では次に、キャプチャーボードを選ぶ時のポイントについて解説します。

キャプチャーボードを選ぶ時には、次の7つのポイントがあります。

まずひとつ目は、「取り付け方法」、二つ目は「対応OSや動作環境」、三つ目は「パススルー機能の有無」、四つ目は「エンコード方式」、五つ目は「接続端子」、六つ目は「最大入出力解像度」、そして7つ目は「最大録画解像度」の7つになりますが、これからひとつひとつ見ていきましょう。

まずはひとつ目の「取り付け方法」ですが、キャプチャーボードには「取付け型タイプ」と「内蔵型タイプ」の2つのタイプがありま

す。

外付け型タイプは、USBなどでパソコンと接続するタイプになりますが、接続方法が簡単なので、パソコンの知識があまり無い方はこちらのタイプがお勧めになります。

一方、内臓型タイプは、デスクトップパソコンに取り付けるタイプになりますが、ノートパソコンでは使用できないので注意してください。

内臓型タイプは、パソコンを空けて内部に取り付ける必要があるもので、パソコン初心者の方にはあまりお勧めできないタイプになります。

内臓型タイプのメリットとしては、見た目がスッキリするのと、4Kの高画質で配信する場合に適しています。

以上が、2つのタイプのキャプチャーボードになりますが、これからゲーム実況を始められる初心者の方は、外付け型タイプのキャプチャーボードが簡単に取り付けられるのでお勧めです。

次に、二つ目の「対応OSや動作環境」ですが、キャプチャーボードのは「Windowsのみに対応しているもの」と、「WindowsとMac両方に対応しているもの」があるので注意してください。

せっかく購入しても、自分のパソコンのOSに対応していないと、ゲーム画面をパソコンに映し出すことができません。

それと、購入する時は必ず、動作環境も確認してください。

最低でも、どのくらいのCPUやメモリ、GPUが必要なのが記載されているので、自分のパソコンのスペックと照らし合わせて確認してください。

もし、自分のパソコンのスペックがわからないという方は、下に「PCスペックの確認方法」という動画を用意しましたので、そちらをご覧ください。

次に、三つ目の「パススルー機能の有無」ですが、パススルー機能とは、キャプチャーボードとモニターをHDMIケーブルで接続することで、遅延の影響を最小限に抑えるという機能になります。

もし、パススルー機能が付いていないキャプチャーボードを使用すると、遅延が発生しモニターを見ながらのゲームプレイが難しくな

るので注意してください。

特に、FPSゲームなどは遅延が発生すると命取りになるので、ゲーム実況をするのであればパススルー機能が付いているキャプチャボードを選んでください。

次に、四つ目の「エンコード方式」ですが、遅延に関する性能はパススルー機能だけではなく、どのエンコード方式を選ぶかによっても変わってきます。

ちなみに、キャプチャボードのエンコードには「ソフトウェアエンコード」と「ハードウェアエンコード」の二つのエンコード方式がありますが、これからひとつひとつ見ていきましょう。

まずひとつ目の「ソフトウェアエンコード」ですが、こちらはパソコン側で行うエンコードになります。

ソフトウェアエンコードは、ハードウェアエンコードに比べてパソコンにかかる負担が大きいのので、ある程度のパソコンスペックが必要になります。

ただし、その分遅延が少なくなるので、ゲーム実況にはお勧めのエ

ンコードになります。

次に、二つ目の「ハードウェアエンコード」ですが、こちらはキャプチャーボード側で行うエンコードになります。

ハードウェアエンコードは、ソフトウェアエンコードに比べてパソコンにかかる負担が少ないので、低スペックのパソコンでも使えます。

ただし、その分遅延も大きくなりますので、ゲーム実況には不向きなエンコードになります。

次に、五つ目の「接続端子」についてですが、PS4やSwitch、スマホからキャプチャーボードに接続する時や、キャプチャーボードからモニターへパススルー出力をするには、基本的にHDMI接続になるので、HDMI端子が搭載されたキャプチャーボードを選ぶようにしてください。

それと、キャプチャーボードからパソコンに接続は、パソコンによってはUSB接続など接続方法が異なる場合がありますので、その場合は変換アダプタを別途用意する必要があります。

次に六つ目の「最大入出力解像度」ですが、最大入出力解像度とはゲーム機側の出力解像度をどの範囲まで入力ができ、キャプチャーボードからモニターに、どの範囲まで出力できるかという性能になります。

例えば、PS4で4Kの解像度で4Kモニターに映しながらゲーム実況をする場合、最大出力解像度も4Kに対応したキャプチャーボードを選ぶようにしてください。

ちなみに、現時点でのYouTubeでの最高画質は1080p/60fpsなので、4Kに対応していなくても今のところ問題はありません。

次に7つ目の「最大録画解像度」ですが、最大録画解像度とはパソコン本体にインストールしているOBSスタジオや付属のキャプチャーソフト側で表示することができる解像度のことを言います。

ゲーム実況の場合、最大録画解像度は1080p/60fpsあれば十分なので、1080p/60fps対応のキャプチャーボードを購入することをお勧めしています。

以上が、キャプチャーボードを選ぶ7つのポイントになりますが、
まとめるとですね、これからゲーム実況を始める初心者の方は、

- 1、外付け型タイプのもの
 - 2、パソコンのOSに対応しているもの
 - 3、パススルー機能が付いているもの
 - 4、ソフトウェア・エンコードのもの
 - 5、HDMI端子が搭載されているもの
 - 6、最大入出力解像度と最大録画解像度が1080p/60fps以上のもの
- を購入するといいいでしょう。

では最後に、お勧めのキャプチャーボードを3つほど、ご紹介したいと思います。

まずひとつ目は「Elgato」の「HD60s」です。

HD60sは、WindowsとMac両方に対応していて、ソフトウェアエンコード方式なので、ライブ実況に適しています。

そして、接続方法はUSB 3.0とHDMIに対応していて、パススルーと最大入出力解像度と最大録画解像度は1,080p/60fpsに対応しているので、特にYouTubeでは問題はなくゲーム実況を配信することが

できます。

価格はAmazonで18,000円ほどで購入することができ、動作環境はこのようなになっています。

次に二つ目のおすすめキャプチャーボードは、「AVerMedia」の「GC550 PLUS」です。

GC550 PLUSは、Windowsのみに対応していて、ソフトウェアエンコード方式なので、ライブ実況に適しています。

そして、接続方法はUSB3.1とUSB Type-C、HDMIに対応していて、パススルーと最大入出力解像度は4K/60fps、最大録画解像度は1,080p/60fpsにそれぞれ対応しています。

価格はAmazonで20,000円ほどで購入することができ、動作環境はこのようなになっています。

次に三つ目のおすすめキャプチャーボードは、「AVerMedia」の「GC553」です。

GC553は、WindowsとMacに対応していて、ソフトウェアエンコード方式なので、ライブ実況に適しています。

そして、接続方法はUSB3.1とUSB Type-C、HDMIに対応していて、パススルーは4K/60fps、HDR、高リフレッシュレートに対応、最大入出力解像度は4K/60fpsもしくは1080p/240fps、最大録画解像度は4K/30fpsのHDR、1080p/120fpsの高リフレッシュレートに対応しています。

価格はAmazonで24,900円ほどで購入することができ、動作環境はこのようなになっています。

以上が、キャプチャーボードの選び方についての解説でしたが、いかがだったでしょうか？

キャプチャーボードは、あなたがこれからYouTubeで、ゲーム実況の生配信を行う上で、必要不可欠なものになりますので、ぜひ参考にしてください。

というわけで、今回は以上になります。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。